

「まちづくりコラボレーション ～さいたま」プロジェクト

代表者 作山康【教授】（システム理工学部 環境システム学科）

構成員 中村仁、澤田英行、中口毅博、増田幸宏（システム理工学部 環境システム学科）

プロジェクトの概要

2013年度にCOC事業の助成を受けて創設した「サテライトラボ上尾」およびさいたま市が大宮駅東口で運営している「アーバンデザインセンターおおみや」を拠点として、地域住民、自治会、社会福祉協議会各種学校、市民活動団体、事業者、自治体などの協力を得ながら、「超高齢化に対応した都市環境の形成、地域の安全性の向上、低負荷環境の創出、経済力維持・向上」に関わる実証的な研究を実施し、地域の多様な主体の協働による都市・地域計画システム（地域の将来目標像の設定とその実現のためのプログラム）のあり方を検討している。2017年度はシステム理工学部電子情報システム学科井上研究室と上尾看護専門学校、原市団地が協力して、自宅にセンサーを設置して独居高齢者認知症早期発見システムに関する研究が実施された。

COC活動の成果

【教育】

都市計画・まちづくり系の大学院の演習科目、学部の演習科目では、従来から特定の地域を対象として地域の課題を把握し、その課題への対応を提案するというPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）の計画・設計演習を実施した。COC事業を受けて、地域との連携をより強化した教育プログラムに発展させ、学生の教育効果をさらに高めている。

毎月開催の運営委員会を立ち上げ、自治会、看護専門学校、UR都市機構、上尾市など、協働のプラットフォームを形成し、演習等の提案成果を基に関係団体と連携して実証実験を実施（2017年度は原市カフェ、餅つき大会など）。

【研究】

学外の地域活動拠点をベースとする卒業論文、修士論文の研究を通じて、地域の課題である「超高齢化に対応した都市環境の形成、地域の安全性の向上、低負荷環境の創出、経済力の維持・向上」およびその実現のための「多様な主体の協働による都市・地域計画システムの創出」に関する先進的かつ実践的な研究を行い、実社会に役立つための研究成果を提案としてまとめている。2017年度は卒業論文2件、修士論文3件の研究実績がある。

【社会貢献】

COC事業で設置したサテライトラボ上尾は、地域の関係者の会合の場、地域の諸活動の場として利用されており、地域に直接貢献する場として有効に機能しているとともに、企業や市民団体との共同研究や連携活動が拡大展開している。大宮では「まちラボおおみや」と連携した演習、商店街と連携したイルミネーションなどを実施、さいたまトリエンナーレにも参加。

上尾サテライトラボの取り組みは、厚生労働省の老人保健健康増進等事業「住宅団地における介護予防モデルに関する調査研究事業」の先進事例として注目されている。



サテライトラボ上尾は、各種団体と連携して教育・研究・交流の場として活用



地域住民・行政・企業などの関係者へ学生の卒業論文や修士論文の研究発表会



「団地を元気にするガイドブック」団地における介護予防の取り組みを推進するための手引き

主なトピックス

交流の拠点

2015年度から高齢者健康支援プログラムの一環としてNPOと連携して「いきいき相談室」として介護予防・健康維持・増進のための相談を実施している。

2016年度から始まった原市カフェは、隣接団地の自治会長の発案で本学と社会福祉協議会、住民ボランティアなどが連携して実施されている。来客数も増加傾向にあり、今後も団地活性化の主要イベントとして機能していくことが地元から期待されている。

2017年度は自治会と研究室がタイアップした餅つきイベントが開催され、多世代での交流が拡大している。



月一度の原市カフェを楽しみに集まってくる高齢者が多く、各種イベント時には多世代が集まる

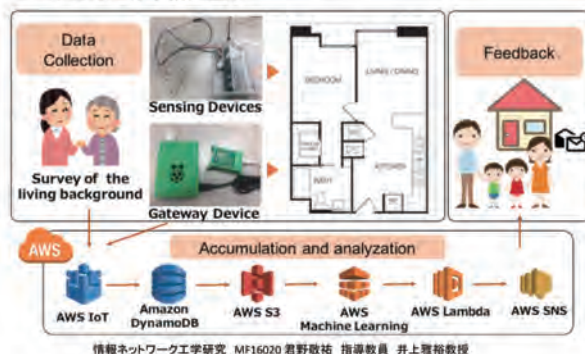
研究の拠点

本学電子情報システム学科井上研究室では、団地住民や上尾看護専門学校の協力のもと自宅にセンサーを設置し生活行動のデータ分析を行う高齢者の認知症早期発見システムの研究が実施され、今後国際会議で発表の予定である。

中村研究室に所属する留学生により高齢者住宅団地の社会資本の評価に関する研究が原市団地をモデルとして行われ、留学生が原市団地で研究をすることは、今回が初めてのケースであり、高齢者団地での取り組みが国際的にも注目されつつある。

宅内行動と生活背景を考慮した認知症早期発見システム

- ・ 宅内に設置されたセンサーから宅内行動を収集
- ・ アンケートによって生活背景の情報を収集
- ・ データの蓄積・分析はクラウドで行われ、分析結果はユーザーまたはその家族に通知



宅内行動と生活背景を考慮した認知症早期発見システム(大学院生君野敬祐氏の修士論文)

教育の拠点

防災系研究室(中村研究室)による団地の防災教室の開催や、健康や防災などの各専門における団体による専門知識の提供・共有を実施している。また、グローバルPBLにおいてマレーシアの留学生が団地の取り組みを見学するなど高齢化対応社会の研究は世界からも注目されている。

親子環境教室は、コープみらいと中口教授と研究の学生が協力して、小学生と保護者とともに体験型環境教育プログラムとして2014年度から続いている。

また、2015年度に大学院の演習授業で提案された団地における街づくりの提案成果物が原市カフェなどを通して住民のために継続的に実現されている。



グローバルPBLのマレーシア留学生がサテライトラボを見学し、石窯ピザ作りに挑戦

さいたま市における学生の取り組み

COLOR MY TOWN

2015年度までの『FACE TO FENCE』と『大宮イルミネーションプロジェクト』による合同プロジェクトで、2016年度の「さいたまトリエンナーレ2016」への参画や「カトリック大宮教会」、「大宮駅東口商店街」と連携し、地域を超えて各場所に表出する活動を行った。

2017度は、「さいたま市立春野小学校」中庭のはるのっこ広場で小学生とともにワークショップを実施し、自分の住む地域を感じられる場所としてイルミネーションで表現した。



さいたま市春野小学校の中庭を源流として街全体を川でつなぐよう連想させたイルミネーション